月刊 しばうら

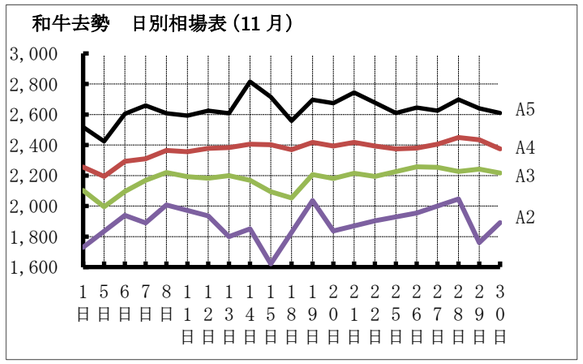
2024年 12月号

牛肉営業部

＜11月の相場動向＞

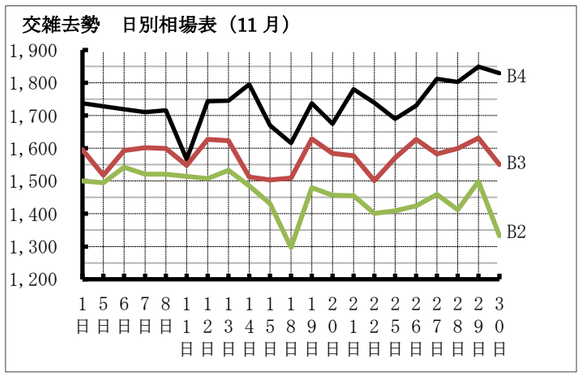
11月の相場動向は和牛5等級を除いて前年・前月を上回る展開となった。これは10月の訪日外客数の入国者数が331万人と、単月として過去最多を記録した今年7月の329万人を上回っており、首都圏を中心に飲食店でのインバウンドによる牛肉消費が増加したためと考えられる。

しかし11月前半まで気温が高かったことや、野菜価格の高騰などによって鍋物需要が振るわなかったこともあり、牛肉需要の低迷という状況は変わっておらず、消費者の節約志向も継続している。



和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,649円	-5円	99.8%	+152円	106.1%
A4	2,377円	+117円	105.2%	+274円	113.0%
A3	2,189円	+219円	111.1%	+230円	111.7%
A2	1,813円	+64円	103.7%	+116円	106.8%



交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,732円	+36円	102.1%	+39円	102.3%
B3	1,589円	+69円	104.5%	+18円	101.1%
B2	1,468円	+146円	111.0%	+14円	101.0%

乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	－	－	－	－	－
B2	1,153円	+368円	146.9%	－	－

＜12月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、10月の輸入量は前年同月比9.0%増の4万3,937tで、うちチルドは6.4%減の1万5,704tと下回り、フローズンは前年同月比20.0%増の2万8,233tと大きく上回った。

農畜産業振興機構によると11月の牛肉輸入数量予測は、前年同月比12.5%増の3万7,600t（チルド3.9%増・冷凍19.3%増）、12月は2.5%増の3万7,000t（チルド1.4%減・冷凍5.4%増）で予測している。11月のチルドは豪州産の増加が見込まれることから前年同月をわずかに上回る一方、12月は前年同月をわずかに下回ると予想している。

輸入牛肉通関量		10月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	7,436	7,986	93.1%
	米国	6,787	7,524	90.2%
	その他	1,481	1,267	116.9%
	合計	15,704	16,777	93.6%
フローズン	豪州	13,428	11,058	121.4%
	米国	9,101	8,075	112.7%
	その他	5,704	4,403	129.5%
	合計	28,233	23,536	120.0%

出典：食肉速報　　単位：t

＜12月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による12月の出荷予測頭数は、全体で前年比107.2%の10万5,000頭で、品種別にみると和牛は11.6%増の5万3,500頭、交雑種は13.0%増の2万6,300頭、乳用種は4.6%減の2万4,300頭と予測している。

東京食肉市場の12月のと畜頭数は8,150頭を予定しています。

＜12月の牛枝肉相場見通し＞

12月に入り末端消費は量販店を中心にまだまだ弱いものの、相場は堅調に推移している。今後の出荷予測は和牛・交雑ともに増えると見込んでおり、需給のバランスが崩れる可能性も出てくるが、外食チェーンの需要は輸入牛肉の入荷状況に左右されやすく、昨年同様に入荷が不安定化し、仕入れ困難な状況が続くと、交雑牛を中心に底堅い相場展開となることも考えられる。また、当市場の牛初セリが1月7日㈫と例年に比べて遅いことから、最終週の相場は堅調に推移するとみられる。

消費者の節約志向は継続していくと考えられるが、気温は全国的に平年並みの予報であり、冬らしい冬となる見込みであることから、鍋物需要の活性化やインバウンドを含めたクリスマス・お正月の年末需要に期待したい。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,700～2,800	B4	1,700～1,850
A4	2,400～2,500	B3	1,600～1,700
A3	2,050～2,200	B2	1,450～1,600
A2	1,850～2,000		
乳牛去勢			
B3	1,100～1,200		
B2	1,000～1,100		

豚肉営業部

10月の全国と畜頭数は145万8,325頭(前年同月比1.5%増)と前年を上回った。また、10月の豚肉通関数量は8万6,780t（同23.6%増）と上回り、前月比では10.2%の増加となった。内訳はチルドが3万4,193t（同2.0%増）、フローズンは5万2,587t（同43.3%増）増加となった。

2023-2024年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
10	78,467	70,100	19,689	192,812	80,065	80,765
11	82,650	74,813	20,154	184,253	82,084	83,372
12	81,152	67,663	21,381	170,120	79,774	81,796
1	80,283	72,051	20,836	173,172	80,748	68,999
2	77,558	64,527	21,439	165,686	76,853	72,013
3	77,333	74,351	23,117	166,119	75,518	73,918
4	78,976	98,780	22,670	174,059	79,317	90,840
5	76,183	94,087	24,239	189,925	74,520	78,221
6	66,310	81,660	24,750	193,156	65,692	78,429
7	71,679	86,155	23,227	195,529	73,101	83,782
8	65,651	84,078	22,108	200,290	66,675	79,317
9	68,773	78,666	21,580	201,197	69,219	77,759
10	7,9625	86,742	21,384	201,922	79,699	86,017
比	102%	124%	109%	105%	100%	107%

出典：農畜産業振興機構　比：最終月の前年同期比　　単位：t

10月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	13,313	99.1%	デンマーク	4,721	125.4%
カナダ	17,472	107.2%	スペイン	14,993	145.6%
メキシコ	3,405	90.8%	メキシコ	5,471	93.6%
			アメリカ	5,931	189.4%
			カナダ	4,870	125.5%
合計	34,193	102.0%		52,587	143.3%

単位：t

＜11月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	63,300	623	609	954
5日	73,100	619	607	788
6日	70,900	624	603	1,049
7日	69,400	628	605	921
8日	66,900	547	541	1,120
11日	68,200	547	546	997
12日	69,900	561	553	1,081
平均	68,814/日			987/日

全国と畜頭数は7万頭前後で推移し、出荷頭数が増加基調に入ったが、この時期は例年、年末を前にした不需要期あたることから荷動きには一服感がみられ、枝肉相場は8日に急落し500円台半ばとなった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
13日	69,100	574	556	970
14日	70,000	560	552	947
15日	66,600	564	547	1,172
18日	67,700	550	554	1,003
19日	69,100	562	547	1,096
20日	68,700	556	543	809
平均	68,533/日			1,000/日

相場は500円台半ばで安定し、この時期としては底堅い展開となった。輸入ポークに入船遅れが出ており、供給面に不透明感があることに加え、円安の影響もあり国産物への引き合いが強い状況が続いた。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
22日	67,100	558	549	1,064
25日	67,700	551	549	941
26日	69,700	559	546	967
27日	69,900	559	551	1,009
28日	71,200	564	556	1,016
29日	66,700	591	575	1,072
平均	68,717/日			1,012/日

全国的に出荷頭数は増えているものの、この時期としては多い状態ではなかった。相場は500円台半ばを維持していたが、29日には上物が前日比27円高と一段高となった。

＜12月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省によると12月の肉豚出荷予測は148万2,000頭（前年同月比101.4%）と予測している。東京食肉市場の12月集荷予定せり頭数は2万500頭、1日あたりでは約931頭を見込んでいます。

農畜産業振興機構によると12月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万8,200t（同115.6%）、内訳は冷蔵輸入量が3万1,600t（同102.4%）、冷凍輸入量は4万6,600t（同126.6%）と予測。

冷蔵品輸入量は、円安や現地相場高の影響等により低調に推移する中、11月予定だったカナダ産の入船が12月にずれ込むと見込まれることから、前年同月をわずかに上回ると予測する。一方で3ヵ月平均では前年同期をかなりの程度下回ると予測する。

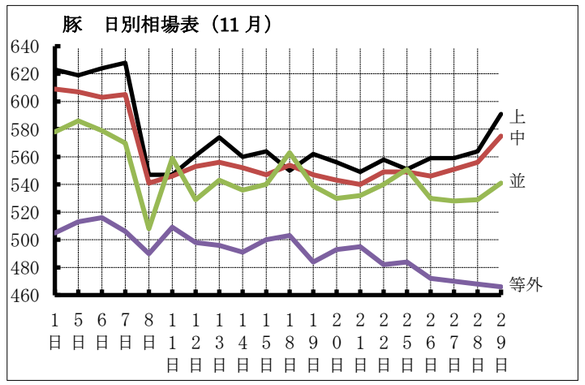
冷凍品輸入量は価格優位性からブラジル産が増加している他、米国産やEU産輸入量も増加が見込まれることから、前年同月を大幅に上回ると予測する。同じく3ヵ月平均でも前年同期を大幅に上回ると予測する。

12月は年末年始の需要に向けた引き合いがピークを迎え、忘年会等イベントが増える中、外食関係の引き合いも強まる。気象庁の予報では12月初旬は全国的に気温が高いが、中旬以降は強い寒気が流れ込む見込みだ。本格的な寒さとともに、鍋物需要で実需が堅調に推移すると考えられ、中部位の動きが更に良化することが期待される。

供給動向は関東周辺で呼吸器系疾病が発生しているが、出荷頭数は全国的に年内いっぱい順調とみられ、当市場も臨時と畜・開市日の12月21日㈯を含めて上場頭数が増える見通しだ。

以上のことから当市場の上物平均価格は580円前後、中物平均価格560前後の展開と予測する。

※　2025年の豚初セリは1月6日㈪です。



東京都港区港南2－7－19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127